

平成 30 年度

運営に関する計画



大阪市立長吉中学校

平成 30 年 4 月

目 次

1. 学校運営の中期目標

2. 中期目標に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

3. 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- (1) いじめ・問題行動への対応
- (2) 人権を尊重する教育の推進
- (3) 道徳教育の推進
- (4) 特別支援教育の充実
- (5) 体験的学習の充実
- (6) 美化・環境整備
- (7) 健康的な生活習慣の確立

4. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- (1) 授業研究を伴う校内研修の充実
- (2) 各教科
　　・国語　・社会　・数学　・理科　・音楽　・美術　・技術家庭科　・保健体育・英語
- (3) 自主学習習慣の確立
- (4) 読書活動の充実
- (5) 体育的活動の充実

大阪市立長吉中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

9年前の、外国籍生徒の受け入れを巡り校内が紛糾し、その影響で学校の荒廃が進み、数年間は問題行動が絶えなかった。また本校の最重要課題は「低学力の克服」である。それらの改善のためには、様々な背景を抱える生徒たちが、学校は楽しいと感じ、学校で生き生きと意欲的に学び、生き抜く力を育成していかなければならない。これらを念頭に、特に次の2本の柱を中心として本計画中期目標を作成し、今後4年間の教育実践を進める所存である。

- ① 生徒自身がわからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学びあう授業を創造することによって学力向上を図る。
- ② 生徒の自立を促すために、教職員が共通認識を持った組織的な生活指導を行うとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し、教職員全体で支援する。

以前のように、「長吉中学校を荒らしてはならない」という強い信念を全教職員が持ち、本校の教育をより良い方向に導き、「生徒・教職員が安全で安心な」教育環境を守り、校訓の「明朗・強調・自立・勤勉」のもとに、生徒が生き生きとし、自ら考え方行動できる長吉中学校を創る。

1 学校教育目標「基礎・基本の充実を図り、自ら学ぶ態度の育成に努め、学力向上を図る」「他者への思いやりのこころを育て、人権尊重の精神を養う」「知・徳・体の調和の取れた人間形成に努める」を目標として、生徒が生き生きとし、自ら考え方行動できる長吉中学校生を育てる。そのためには、教科指導・生活指導・部活動の3つの調和を保ち、落ち着き、しっとりとした時間が流れる学習・活動ができる環境づくりを推進する。

2 学力向上に向け、積極的に習熟度別少人数授業・TTに取り組み、生徒自らが課題を発見して表現し、ともに学びあう授業を創造することに努める。そのためには6年前から続いている本校独自の「校内授業研究会」をより発展させ、先進校への視察はもちろん積極的に本校の取り組みを内外に発信するものとする。

3 部活動において体罰など絶対にあってはならない。本校から体罰・暴言のない、活力ある学校をつくる。生徒自らが様々な体験を通じて得られる達成感や成就感を大切にする教育活動を推し進める。「額に汗してこそ得られる喜び」を全生徒が味わえるよう教育活動の見直しを図るとともに、委員会活動や教科係等においても必ず役割を持ち、達成感を得られるような取り組みを推進する。つまり、「行事や仕事が人を育てる」ことを念頭に教育活動を執り行うものとする。

4 「チーム長吉」としての教職員の和を大切にし、日々の教育活動における課題解決に向けて組織的な生活指導体制とともに、いついかなる時も様々な背景を持つ生徒たちに「寄り添える」ことのできる教育を目指す。そして「小さくてもきらりと光る学校」をスローガンに教職員一人一人の教育力および人間力向上に努める。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- ・平成 32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う生徒数を平成 28 年度より減少させる。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成 28 年度より減少させる。
- ・人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員全体で支援する。このことで、平成 32 年度末の校内調査において「学校は楽しい」など充実感を示す解答を平成 28 年度より向上させる。
- ・道徳教育推進については、仲間づくりを意識した校外活動の取組や、よりよく生きるために道徳性を養う様々な取組の中で、道徳教育について考える機会を設ける。道徳の時間に限らず、各教科授業・学級活動・朝学活、学年集会等のすべての活動において道徳教育が行う。「学年だより」を活用した家庭への活動内容の紹介や校外での研修などへの参加を促し、人権教育にも貢献していく。このことで、平成 32 年度末の校内調査において理解度の項目で、肯定的な回答を平成 28 年度末より向上させる。
- ・美化活動に積極的に取り組む態度を養うとともに生徒の主体的な環境整備活動を支援し、平成 32 年度末の校内調査において「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で肯定意見率を平成 28 年度より向上させる。
- ・地域等とも防災訓練を実施するほか、防災・減災教育を充実し、自他の命を守る意識を深める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- ・平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率平均点以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より減少させる。
- ・平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率平均点以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より増加させる。
- ・平成 32 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、平成 28 年度より増加させる。
- ・平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、平成 28 年度より向上させる。
- ・平成 32 年度まで毎年、全教員が年 1 回以上、道徳や習熟度別授業を含め、指導案(授業デザイン)を作成した研究(公開)授業を行い、生徒自身の学びによって学力を向上させることをめざして、わからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を広げ、

定着させる。合わせて ICT 機器の活用状況と効果の高かった活用法について交流する。

- ・平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における A 問題正答率を国語科「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」で各 85%以上、「言語事項」 75%以上、数学科「数と式」 65%以上、「図形」 70%以上、「数量関係」「資料活用」で全国平均レベルとする。
- ・卒業段階で英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合で中期目標の達成をめざし、本年度の英語能力判定テストで各学年での平均を昨年度比で上昇させる。
- ・理科教育を充実させ、生徒が行える実験を伴う授業を 20 回以上設定し、「観察・実験は好き」と答える生徒の割合 80%以上をめざす。

自ら学ぶ態度の育成に努め、平成 32 年度末の校内調査において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を平成 29 年度以上とし、45%をめざす。

- ・知・徳・体の調和の取れた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を一層向上させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査での課題に対応した指導を強化するとともに、ニュースポーツにふれる機会も設定してスポーツに親しみ、男女とも運動能力を一層向上させる。
- ・学校医のアドバイスを全校生徒に伝えたり、学校保健委員会を開催したりといった方策で健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行い、未治療率を更に減少させる。
- ・「食に関する指導の全体計画」及び「年間指導計画」を作成し、栄養のバランスを考えた食生活の意識を向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員全体で支援する。このことで、生徒アンケート等で「学校は楽しい」など充実感を示す解答を昨年度以上に向上させる。
- 道徳教育推進については、仲間づくりを意識した校外活動の取組や、よりよく生きるための道徳性を養う様々な取組の中で、道徳教育について考える機会を設ける。道徳の時間に限らず、各教科授業・学級活動・朝学活、学年集会等のすべての活動において道徳教育が行う。「学年だより」を活用した家庭への活動内容の紹介や校外での研修などへの参加を促し、人権教育にも貢献していく。
- 美化活動に積極的に取り組む態度を養うとともに生徒の主体的な環境整備活動を支援し、生徒向け学校アンケート「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で肯定意見率を昨年度以上に向上させる。
- 地域等とも防災訓練を実施するほか、防災・減災教育を充実し、自他の命を守る意識を深める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 学校評価アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈

の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- ・全教員が年1回以上、道徳や習熟度別授業を含め、指導案を作成した研究授業を行い、生徒自身の学びによって学力を向上させることをめざして、わからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を広げ、定着させる。合わせてICT機器の活用状況と効果の高かった活用法について交流する。
- ・平成29年度全国学力・学習状況調査におけるA問題正答率を国語科「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」で各80%以上、「言語事項」70%以上、数学科「数と式」62%以上、「図形」65%以上、「数量関係」「資料活用」で全国平均レベルとする。
- ・卒業段階で英検3級以上の英語力を有する生徒の割合で中期目標の達成をめざし、本年度の英語能力判定テストで各学年での平均を昨年度比で上昇させる。
- ・理科教育を充実させ、生徒が行える実験を伴う授業を20回以上設定し、「観察・実験は好き」と答える生徒の割合80%以上をめざす。
- ・自ら学ぶ態度の育成に努め、平成29年度末の校内調査において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を昨年度以上とし、70%をめざす。
- ・学校図書館の活性化を推進し、本校に読書の文化が根付くよう取り組む。学ぶ力の最も基礎となる読解力・表現力の向上を目指す。
- ・知・徳・体の調和の取れた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を一層向上させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査での課題に対応した指導を強化するとともに、ニュースポーツにふれる機会も設定してスポーツに親しみ、男女とも運動能力を一層向上させる。
- ・学校医のアドバイスを全校生徒に伝えたり、学校保健委員会を開催したりといった方策で健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行う。
- ・「食に関する指導の全体計画」及び「年間指導計画」を作成し、栄養のバランスを考えた食生活の意識を向上させる。
- ・校長経営戦略予算を活用し、芸術鑑賞の機会を年間1回以上設け、音楽や演劇・古典芸能等の芸術に触れる機会を設ける。

3 本年度の自己評価結果の総括

3 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

年度目標	達成状況
<p>【2つの最重要目標】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。・学校評価アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">・人権尊重の精神と社会性を育成するため、体験的な学習を取り入れた教育を全学年で実施・充実させるとともに、生徒が輝き成就感を得られる自主的・体験的活動を組織し教職員全体で支援する。このことで、生徒アンケート等で「学校は楽しい」など充実感を示す解答を昨年度以上に向上させる。・道徳教育推進については、仲間づくりを意識した校外活動の取組や、よりよく生きるための道徳性を養う様々な取組の中で、道徳教育について考える機会を設ける。道徳の時間に限らず、各教科授業・学級活動・朝学活、学年集会等のすべての活動において道徳教育が行う。「学年だより」を活用した家庭への活動内容の紹介や校外での研修などへの参加を促し、人権教育にも貢献していく。・美化活動に積極的に取り組む態度を養うとともに生徒の主体的な環境整備活動を支援し、生徒向け学校アンケート「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で肯定意見率を昨年度以上に向上させる。・地域等とも防災訓練を実施するほか、防災・減災教育を充実し、自他の命を守る意識を深める。	

(1) いじめ・問題行動への対応

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 教育相談等を活用して、生徒との信頼関係を築き、いじめや問題行動に対して毅然とした対応を行えるようにする。教育相談やいじめ調査などをもとに、いじめ防止委員会をひらき、関係諸機関との連携を図る。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ問題行動に対応する制度の活用)</p>	
<p>指標 各長期休業後に被害調査を行う。年2回以上の教育相談を行う。いじめアンケートを毎月行い、いじめの認知と解消に努める。</p> <p>自己理解、他者理解が高まるよう、コグトレやSEL-8S、ピアサポート等を活用した学習を学期に2回以上取り入れる。</p>	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 不登校や虐待に早期対応できるようにするために、教職員同士や関係諸機関と情報交換を行える体制づくりをする。</p> <p style="text-align: right;">(不登校や児童虐待などの課題への対応)</p>	
<p>指標 各学年、発達段階に応じて年1回、外部講師を招いての健全育成教育を行う。</p> <p>各学年、課題に応じた健全育成教育を年1回以上、企画し実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 保護者や地域と連携し、問題行動の未然防止や連携を生かした指導を行えるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)</p>	
<p>指標 長期休業中、保護者や地域と連携し、校区内巡視を2回以上行う。</p> <p>学校評価アンケートを活用したいじめ防止委員会を必ず学期末（終業式・修了式）に行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(2) 人権を尊重する教育の推進

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【道徳心・社会性の育成】 学校生活のあらゆる場面で人権感覚を身につけさせ、個を尊重し自分や他者の痛みを理解できる生徒を育てる (人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標 大阪市が長年培ってきた人権教育の発展・継承と各学年発達段階に応じた人権をテーマにした授業を行う。</p>	
<p>取組内容②【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 教員の人権意識を高め、より多角的な視点を得るために多くの研修の機会を設ける。 (若手教員の指導力向上と校内研修の支援)</p> <p>指標 大阪市人権教育研究協議会、大阪市外国人教育研究協議会主催の各研修会への参加・教職員地域研修推進委員会の活動への参加を呼びかける。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(3) 道徳教育の推進

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・社会性の育成を意識した仲間づくり（校外学習・文化祭等）を行い、参加型・体験型の学習を取り入れたカリキュラムを実施する。 （道徳教育の推進）	
指標 学年、委員会などと連携を図った取り組みを行い、各学年で学期ごとにアンケートや感想文等により生徒の意識の把握に努める。	
取組内容②【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ・各年次研修において道徳的価値について理解を深め、道徳的な判断力・実践意欲を育てる発展的な研究授業と研究討議を行う。 （学習環境の分析）	
指標 道徳的価値について理解を深め、道徳的な判断力・実践意欲を育てる発展的な研鑽した指導を行う。また上記のアンケートにおいて理解度の項目で、肯定的な回答の60%以上を目指す。	
取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 ・道徳教材（副読本等）を活用した道徳教育の充実を図るとともに、集会等を通して道徳心や社会性を育成する。 （若手教員の指導力向上と校内研修の支援）	
指標 ・指導内容を精選・工夫し、計画的に道徳教育を実施する。 ・全校集会や学年集会を定期的に行い、生徒の実情に応じた指導を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(4) 特別支援教育の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 障がいの特性を把握し、一人ひとりの実態に応じた指導、支援を行う。 (インクルーシブ教育システムの充実と推進)	
指標・チェックシートを活用し保護者と連携を取って個別の指導計画を作成する。 • 推進委員会を毎月開催し、共通理解と支援方法を具体的に検討する。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒一人ひとりに応じた学習の指導に努め、自立につながる学力や社会参加の基盤を構築する。 (教育活動のための時間の確保)	
指標・視覚支援やタブレット・授業用ノートパソコンを活用しながらスマーリングアップで目標を指示し学習を進める。 • 放課後や長期休業を活用して学習補充を行う。 • ソーシャルスキルトレーニングで適切な態度や行動を身につける。	
取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 特別支援教育への基本的な理解と共に多様なニーズを持つ生徒への指導、支援を充実させるための専門性の向上や教育環境の整備、支援体制の充実を進める。 (若手教員の指導力向上と校内研修の支援)	
指標・巡回相談やインクルーシブ教育推進事業を活用する。 • テーマを絞り毎学期、校内研修会を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(5) 体験的学習の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 生徒会活動を通して、学校より良くするための活動の場を作り、生徒一人一人の自主性、協調性を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動において各生徒委員会と執行部の連携をより深め、生徒会活動が活発に行えるよう、生徒議会における話し合いを充実させる。 ・あいさつ週間を実施する。 ・目安箱を設置し、自分の意見や思いを出せる生徒の育成を図る。 ・ボランティア活動としてPBC(ペットボトルキャップ)回収を行い、作業所と連携を図る。 <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」「あいさつができた」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 文化発表会での合唱コンクールの実施や古典芸能の鑑賞によって、芸術に触れさせる。 <p style="text-align: right;">(音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出)</p>	
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容③【職業や進路についての見識を深める】 体験的学習を取り入れたキャリア教育を次のように推進する。 1年 職業講話 SPトランプを通して、職業への意識を高め、自分の個性を探る 2年 職場体験学習を通して、仕事をすることの意味や厳しさ・やりがいを知り、自身の進路を考えるきっかけとさせ、今後社会人としての生きていくためのマナーや言葉遣いを育成する。 3年 体験入学、高校見学会、説明会を通して、自ら進んで情報収集する能力を育てる。自己申告書への志望動機の記入、面接練習を通して、社会人としての自覚や態度を育てる。 <p style="text-align: right;">(キャリア教育の充実)</p>	
指標 生徒向け学校評価アンケートの「学校での生活は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り組んでいる」などの項目で肯定的回答を昨年度以上にする。	
取組内容④【子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 各学年で次のように体験的学習に取り組み、人権尊重の精神と社会性を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年 一泊移住・校外学習・百人一首大会・球技大会を実施し社会性や自主性を育成する。 ・2年 校外学習・百人一首大会・球技大会を実施し、社会性や自主性を向上させる。 ・3年 修学旅行（民家泊）・球技大会を実施し、社会性や自主性をさらに向上させる。 <p style="text-align: right;">(教育活動のための時間の確保)</p>	
指標 生徒アンケート等で「学校は楽しい」「学校でのいろいろな行事に積極的に取り	

組んでいる」など充実感を示す解答を昨年度以上に向上させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(6) 美化・環境整備

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 防災・減災教育を実施し、自他の命を守る意識を深める。 (防災・減災教育の推進)	
指標 地域の防災活動と連携した防災訓練を6月に予定し、事前の取り組みをも含めて計画・実施することにより効果的な訓練とする。また、避難訓練も(火災、地震・津波)合わせて実施・活用し、緊急時での行動を意識させる。 ・日常生活でも、防災意識を持てるよう、防災・減災教育を行う。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 疾病、けが予防の啓発活動を行うとともに、安全な学習環境の整備に努める。 (安全教育の推進)	
指標 ・掲示物などの作成に、環境委員が定期的に参加する。 ・学期ごとに破損調査を実施し、危険個所のない校内の整備に努める。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・自ら進んで校内美化に取り組む態度を養うとともに、身の回りの物品を大切にする態度と社会性を養う。 ・学校内の緑化を推進し、緑地環境・社会環境に対する意識を養う。 (人権を尊重する教育の推進)	
指標 日常の清掃活動が円滑になるように指導を徹底し、年間3回程度の大掃除を行う。 ・「清掃活動や環境整備活動はしっかりできている」で、肯定的率85%以上にする。 ・環境委員が中心となって、正面前の花壇周辺を整備・管理し、緑化についての広報活動も行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(7) 健康な生活習慣の確立

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・来室統計をもとに実態に即した情報を発信し、連携を密にして支援の充実を図る。 <p style="text-align: right;">(健康に関する現代的課題への対応)</p> <hr/> <p>指標 • 毎月1回来室統計を発行し、早期の課題把握・定期的な情報共有を行い、連携して支援につなげる。 • 年1回学校保健委員会を実施することにより、学校医・地域と連携して生徒の健康に関する課題への対応につなげる。</p>	
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・自身の健康に関心を持ち栄養のバランスを考えた食生活の意識を向上させる。 <p style="text-align: right;">(食育の推進)</p> <hr/> <p>指標 食に関する指導の全体計画に基づき、生徒委員会の活動を中心に生徒に啓発活動を行う。指標</p>	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・給食ニュースの掲示や、給食放送を通して栄養や食品についての理解を深めさせる。 <p style="text-align: right;">(中学校給食の充実に向けた総合的な取組)</p> <hr/> <p>指標 給食の喫食状況の実態を把握し、食と健康についての学習を年2回行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

4 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

年度目標	達成状況
<p>【2つの最重要目標】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。<ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。・平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、前年度より向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">・全教員が年1回以上、道徳や習熟度別授業を含め、指導案を作成した研究授業を行い、生徒自身の学びによって学力を向上させることをめざして、わからぬことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業を広げ、定着させる。合わせてICT機器の活用状況と効果の高かった活用法について交流する。・平成30年度全国学力・学習状況調査におけるA問題正答率を国語科「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」で各80%以上、「言語事項」70%以上、数学科「計算式」62%以上、「図形」65%以上、「数量関係」「資料活用」で全国平均レベルとする。・卒業段階で英検3級以上の英語力を有する生徒の割合で中期目標の達成をめざし、本年度の英語能力判定テストで各学年での平均を昨年度比で上昇させる。・理科教育を充実させ、生徒が行える実験を伴う授業を20回以上設定し、「観察・実験は好き」と答える生徒の割合80%以上をめざす。・自ら学ぶ態度の育成に努め、平成30年度末の校内調査において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を昨年度以上とし、75%をめざす。・学校図書館の活性化を推進し、本校に読書の文化が根付くよう取り組む。学ぶ力の最も基礎となる読み解き力・表現力の向上を目指す。・知・徳・体の調和の取れた人間形成の一環として体育的行事を充実させるとともに、部活動への参加率を一層向上させる。・全国体力・運動能力、運動習慣等調査での課題に対応した指導を強化するとともに、ニュースポーツにふれる機会も設定してスポーツに親しみ、男女とも運動能力を一層向上させる。	

- ・学校医のアドバイスを全校生徒に伝えたり、学校保健委員会を開催したりといった方策で健康で楽しい学校生活を自ら作り出す生活態度を養うとともに、定期健康診断の結果による治療勧奨を行う。
- ・「食に関する指導の全体計画」及び「年間指導計画」を作成し、栄養のバランスを考えた食生活の意識を向上させる。
- ・校長経営戦略予算を活用し、芸術鑑賞の機会を年間1回以上設け、音楽や演劇・古典芸能等の芸術に触れる機会を設ける。

(1) 授業研究を伴う校内研修の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 全教員が授業指導案をともなった校内研究授業を行う。ICT機器を活用した授業に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(『主体的・対話的で深い学びあい』の推進)</p> <p>指標 全教員が授業指導案を作成して年に1回以上校内研究授業を行う。相互授業参観を通して年2回以上授業を参観し「授業記録シート」を提出する。放課後に行う校内授業研究会で、外部講師を招いて「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して生徒に生きる力を育むことを目指す」の授業づくりの指導を受ける。ICTの活用を目指した研修会を1回以上持ち、研究授業を1回以上行う。</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 授業分析と検討会を通して、「基礎的・基本的な知識・理解・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」を大切にして生徒の学力向上を目指す。</p> <p style="text-align: right;">(学校力UP支援事業)</p> <p>指標 放課後に外部講師を招聘した校内授業研究会（公開授業を含む）を年4回行う。その後に子どもたちがわかる授業づくりを意識した授業分析と検討会を行い、研究を重ねて生徒の学力向上を目指す。生徒アンケートで「わかる」率を前年度よりも高める。授業アンケートを実施し、評価平均値を各学年で3以上を目指す。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(2) 各教科

① 国語

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 読書に対する興味関心を持たせる。表現力や語彙を豊かにする。 (学校図書館の活性化)	
指標 図書紹介の発表会や、授業で図書室を利用する機会を各学年年間5回以上設け、読書活動の推進を図る	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 知識・理解の定着をより豊かなものにする。 (学校力UPベース事業(習熟度別少人数授業など個別に応じた指導の充実))	
指標 各学年の文法事項、書写、作文指導等の授業に習熟度別授業を取り入れ、	
取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tを活用した授業を通して、「話すこと・聞くこと」の能力の向上をめざす。 (ICTを活用した教育の推進)	
指標 電子黒板やプロジェクター、パソコン室等を各学期で5回以上使用し、 生徒の発表や聞き取りの授業を充実したものにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

②社会

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 外部組織と連携し、学習資源の有効活用を図って授業と社会をつなげる。 (産業界との連携と学習資源の活用)	
指標 地理、歴史、公民の三分野で学習課題となっているテーマを、各学年とも外部講師を招いた授業を年1回以上行う。	
取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力の向上】 他校の授業研究会への参加や校内相互授業参観を通して子どもの状況に応じた授業改善を推進する。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング))	
指標 各学期に1回以上相互に授業参観を行い、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業検討会を行う。各学年小テスト・確認テストなどを行い、50%以上の正答率を目指す。生徒の評価で「わかりやすい」という割合を昨年以上にする。	
取組内容③【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 社会の三分野を通して、国際関係・国際交流の課題学習を設定した授業をおこなう。 (多文化共生教育を推進)	
指標 各学年の「国際理解教育」と連携して、独自教材や資料等を作成し年に1回多文化共生教育に取り組む。また、三分野の国際関係・国際理解の単元など適切な課題を設定して年に1回以上取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

③数学

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 プリント等の教材を利用し、繰り返し学習によって基礎・基本的な内容の定着を図る。 <p style="text-align: right;">(理数教育の充実)</p>	
指標 全国学力・学習状況調査における A 問題正答率が「数と式」の領域において 63%以上をめざす。また、チャレンジテストにおける大阪府の平均正答率と比較し、生徒を同一の母集団で見て、いずれの学年も前年度より向上させる。	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒の学び合いが活発に行われ、数学が分かりやすいと実感が得られるような教材を研究する。 <p style="text-align: right;">(「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進)</p>	
指標 アンケートを実施し、理解度、満足感等の項目において、肯定的な回答で 70% 以上をめざす。	
取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT 機器（電子黒板・タブレット）を活用し、生徒の理解をより深めるようにする。 <p style="text-align: right;">(ICT を活用した教育の推進)</p>	
指標 ICT 機器（電子黒板・タブレット）を年間 10 回以上使用した授業を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

④理科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 理科室での理科実験を通して機器を扱う技能を身につけ、活用する能力を育む。 (理数教育の充実)	
指標 理科室で行う理科に関する実験を各单元で1回以上行い、生徒アンケートにおいて「実験・観察が好きである」という設問に、肯定的な回答をする生徒が全学年において60%を上回るようにする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎学力定着のために、生徒どうしで学びあえる授業づくりを行う。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進)	
指標 反復学習や班活動を年15回以上取り入れる。	
取組内容③【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器を取り入れた授業を通して、機器活用の有効性を伝える。 (ICTを活用した教育の推進)	
指標 ICT機器を取り入れた授業を、各单元で1回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑤音楽

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 校外の演奏会の案内等を掲示し、授業では鑑賞の領域から、音楽・吹奏楽に親しむ機会を設ける。 (音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出)	
指標 鑑賞の授業、校外での演奏会を含め、年間10回以上機会を設ける。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 反復練習や、班活動を授業に取り入れる。また、校内相互授業参観を通して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の促進をめざす。 (主体的・対話的で深い学び)	
指標 音楽表現のための基礎知識の定着を図り、表現に活かす。そして反復練習や、班活動の学び合いを通して、歌唱・器楽の技能を伸ばす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑥美術

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>タブレット・授業用ノートパソコンを積極的に活用し、美術史上の名画や作品について月に1度以上鑑賞し学習する機会を設ける。</p> <p style="text-align: right;">(ICT を活用した教育の推進)</p>	
<p>指標 タブレット・授業用ノートパソコンを積極的に活用し、鑑賞の機会を各学年で各月に1回以上設ける。</p>	
<p>取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>各学期での授業課題について、完成まで取り組めるよう昼休み・放課後に補習を実施し、未完成の生徒の数を1クラスにつき10人以下に減少させる。</p> <p style="text-align: right;">(放課後を利用した学習機会の支援)</p>	
<p>指標 放課後の授業補習を、各学年で各学期につき1回以上行う。</p>	
<p>取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>毎回の授業で、プリントへの振り返りを記入させる。各課題の完成後は、作品への振り返りを行い、グループ単位での相互鑑賞学習を行う。</p> <p style="text-align: right;">(「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング) の推進)</p>	
<p>指標 各授業での振り返りの記入率が80%以上を目標とし、各学期で1回以上グループ単位での鑑賞学習を行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑦技術・家庭

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 実践的、体験的学習を多く取り入れる中で、実習教室における安全面の設備の充実を図り、安全教育を推進する。 (安全教育の推進)	
指標 実習授業における作業前の安全確認と、作業後の安全点検を毎時間実施する。	
取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 基礎的、基本的な授業内容の定着を図り、各自が発展的に工夫できる学習課題の設定。 (放課後を活用した学習機会の支援)	
指標 実習授業の内容を工夫し、個に応じた発展的な課題に取り組ませる。その上で、作品の完成率を91%以上を目標に、欠席者や進度に遅れのある生徒についても対応し、作品の完成をめざし、放課後を活用して補習を行う。	
取組内容③【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 グループ活動を多く設定し、生徒同士の意見交流や教え合い活動の時間を多く設定する。 (「主体的、対話的で深い学び合い」(アクティブ・ラーニング)推進)	
指標 実習時間も含め、月2回以上グループ活動を行い、課題解決に向けてのワークシートやノートを記入させ点検する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑧保健体育

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 男女共修での学習場面を設定する。 （「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の推進）	
指標 性差の違いを理解しながら学習を深める	
取組内容②【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 体力向上に向けて、授業の最初に補強運動や体つくり運動を取り入れる。 （子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実）	
指標 新体力テストの結果を踏まえて、握力・長座体前屈の向上を目指す。	
取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 自主的に運動することへの意識を高めるため、また、体育の授業場面での学習の様子について理解が深まるようにする。 （子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実）	
指標 学習プリントを活用し、学んだことを整理する。 “運動有能感に関する調査”を年に2回実施し、生徒の運動についての傾向を見取り、学習活動に生かしていく。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑨英語

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>ペアワーク、グループワークの形態を授業に取り入れる。</p> <p>(主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング) の推進</p>	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>ペアワーク、グループワークの形態を授業に取り入れる。</p> <p>(主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング) の推進</p>	
<p>指標</p> <p>アンケートを実施し、「英語の授業がわかる」に対する肯定的な回答の 70%を目指す。</p>	
<p>取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>英語イノベーション事業の指導支援教材を授業で活用し、放課後の自主学習を実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>英検対策の問題集の貸し出しや多読教材（読みトレ）を活用し、放課後の自主学習の取り組みを年間 7 回おこなう。</p>	
<p>取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>ICT を使った授業をふやし、プレゼンテーションの際にも活用できるようにする。</p> <p>(ICT を活用した教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>年間 10 回 ICT（タブレット・授業用ノートパソコン）を活用した授業に取り組む。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(3) 自主学習習慣の確立

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 授業の予習・復習などに活用できる学習教材を提供する。 (教育活動のための時間の確保)	
指標 「家で学校の宿題（授業の復習）をしていますか」の項目で「している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学校元気アップ地域本部事業が取り組んでいる、放課後に自主学習を支援する場を計画的に提供し、体制を組んで学習活動を支援する。 (放課後を活用した学習機会の支援)	
指標 昨年度の放課後の学習会での英検合格者33名以上を目標とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(4) 読書活動の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校図書館の整備に努め、より使いやすく魅力あるものとする。 (学校図書館の活性化)	
指標 学校図書館の利用率・図書貸し出し数のさらなる向上。昨年度の2000冊を上回る図書貸し出し数とすること。	
取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校元気アップの内容を深め、生徒にとって身近な存在とする。 (保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)	
指標 学校元気アップとの連携、保護者やボランティアによる学校図書館支援	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒の要望に沿った企画を立案し、学習支援を行う。 (放課後を活用した学習機会の支援)	
指標 放課後学習会の継続と発展、学校元気アップによる英検講座のさらなる充実。 年間30人以上が英検に合格すること。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(5) 体育的活動の充実

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 体育的行事の柱として体育大会を開催する。保健体育の授業を始め、学校生活で学び取った姿が見られるよう、生徒係の充実をはかる。 (保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)	
指標 運営は学校とPTAを中心となって行い、地域の方も招待する。多くの保護者が行事へ参加できるよう、保護者席は椅子席と立見席を設け、周知する。	
取組内容②【施策4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】 保健体育科の授業で講師として外部指導者を招へいし、ニュースポーツ等を体験し、運動への興味関心を高め、自身の体力増進に役立てる。 (就学前教育カリキュラムの改訂)	
指標 「夢・授業」等の事業も活用し、年に2回以上体験的な学習を実施する。	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 新入生が部活動に興味を持ち、参加しやすい取り組みを行い、部活動参加率を向上させる。放課後を部活動の時間として有効活用し、健康的で充実した学校生活を送る。 (子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実)	
指標 部活動参加率を全体で70%以上を目指す。また、小中連携で部活動交流会を1回以上行う。生徒にあった部活動選択のため、部活動紹介と仮入部期間を設ける。より活発な活動ができるように部活動部長会議を年5回以上開く。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	